

10月23～24日の2日間、4つの池袋本町の商店会は、池袋本町防災ひろばにおいて、第3回商人(あきんど)まつりを開催しました。

今年は、豊島区商店街連合会(区商連)と東京商工会議所豊島支部との共催での開催です。3回目ですが、2日間というのは今年初めての試みです。両日とも、豊島区の姉妹都市のひとつ岩手県一関市からの出店や、バナナや魚のたたき売りなど、企画に工夫をこらし、スタッフのみなさんのはっぴ姿も身につけていました。入客数も過去最高でした。延べ来客数は、2日間で3000人を超えたとはいえます。

責任者の一人は、この商人まつりの目的の1つに「まちの人と顔を合わせることをあげ、みなさんと顔なじみになり、まちで声を掛け合い、明るく、元気のあるまちにしたいと言います。初日の企画の一つ、防災スタ



ンプラリーのポイント3箇所の井戸ひろばと、「けむり体験」には、300人を越える人たちが参加し、防災まちづくり祭を超えて人気を呼びました。これは、せっかく本町に出来た3つの「井戸ひろば」をみんなに知ってもらいたいということで、防災スタンプラリーを計画したそうです。

(取材:内藤、青山)

おりしもその初日の夕方、新潟県を中心に関東甲信越地方にマグニチュード6.8の直下型地震がおき、東京地方も震度3～4という久々に大きな揺れと、余震がありました。「やっぱりきたか!」、本当にこのまま「防災ひろば」になるのかと思う瞬間でした。新潟地方の被害は日々広がり、ショックによる死亡も含めて伝わってきます。大都会と山あい地方との違いはありますが、日頃からの関わりや、災害時に対する心構えの大切さを感じさせられました。

池袋本町 防災まちづくり ニュース no. 33

発行:池袋本町防災まちづくりの会
豊島区住環境整備課
問い合わせ先:住環境整備課
TEL 03-3987-0489
編集協力:(株)防災&都市づくり計画室

発行:池袋本町防災まちづくりの会
豊島区住環境整備課
問い合わせ先:住環境整備課
TEL 03-3987-0489
編集協力:(株)防災&都市づくり計画室

防災まちづくり祭

今年で9回目を迎え、すっかり年中行事となってきた池袋本町防災まちづくり祭が、5月23日(日)に、たくさんのお客さんが泳ぐ本町防災ひろばを会場に行われました。厳しい陽射しもない曇り空の下、大勢の方が参加されました。

9年目ということで、煙体験や投げき水バック、放水訓練、救命救急訓練などすっかりおなじみとなった訓練もたくさんあります。しかし訓練は毎年繰り返すからこそ、いざと言う時に役立つもの。みなさん、一生懸命に取り組んでおられました。

池二小と文成小の生徒さんの参加による防災ポスターコンクールや非常食の試食なども人気のコーナーとなりました。

一方で、今年の新しい企画として、炊き出しコーナーが行われました。これは防災倉庫に備蓄されている灯油焚のバーナーに大鍋をかけてご飯を炊くというものです。実際の災害時にも使われるものだけに、まさしく本番さながらに行われました。ごはんの焚きかげんは、参加された方からお聞きください。



オープニングの末広太鼓



水の勢いにびっくり放水訓練



参加者が投票した防災ポスターコンクール



犬についてのアンケート

防災まちづくりの会 防災ひろばの会

新会長に大沢氏

池袋本町防災まちづくりの会と池袋本町防災ひろばの会では、小島建之会長が勇退されたのを受けて、後任の会長に人沢登美治氏を選出しました。

大沢氏は防災まちづくりの会発足当時から委員として活躍されてきました。一方、池袋本町中央町会の町会長であると共に、本年4月から第11地区の連合町会長の要職にも就任されました。ますますお忙しい中、防災まちづくりに決意も新たに取り組んでいただくこととなります。

地区の防災まちづくりは、防災生活圏促進事業が来年の3月で終了しますが、引き続き新しいまちづくりにその活動は引き継がれようとしています。その大切な時期に、会長として2つの会を取りまとめていただくこととなります。どうぞよろしくお願ひします。

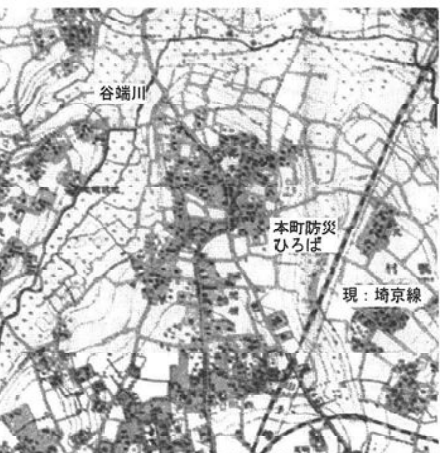
つれづれに一言
昭和二十年、私は十五歳でした。住まいは本町郵便局のところで、親父は子供や病人へのくだもの配給の商売をしていました。
四月十三日の城北の空襲のときは、親父と従兄弟と私の三人家族でした。火が迫ってきた時、通りは一丁目から板橋方面へ人であふっていました。まわりの空が真っ赤で台風のような風です。たくさんの人で逃げ場を失い、ガスの会社のはらっぱへ逃げた。中パケットで顔を覆い、荷物への火の粉を消しながら、夜を明かし助かることができた。
あのガス会社のはらっぱが、今は区の清神事務所となり、これから公園などの施設を整備するといふ計画もあると聞いています。私の命を救ってくれたのはらっぱが、これからも地域の入々を救う広場になることに、特別な想いを感じています。(馳尾)

サバイバル・ワンポイント講座 その15

水から守る

今年の夏は暑かったですね。東京の最高気温や真夏日の記録などが更新しています。また、台風も多かったですね。8月までの台風上陸数6個は、統計を開始した1951年以降で第1位の記録となりました。では、池袋本町と水についてお話を...

この地図は、明治42年頃の地図です。谷端川が池袋本町を囲むように流れています。東側には、すでに鉄道(現:埼京線)が通っています。当時は、まだ池袋本町の全域が市街化していたわけではありません。鎌倉街道(現:本町中央通り)沿いに街並が形成されています。そして、谷端川沿いや今の本町防災ひろばからドンドン橋にかけて水田が広がっ



明治42年頃の池袋本町付近(郷土資料館資料)

ています。この辺りは、本町の中では土地の低いところになります。「水は低いところへ流れる」なんてことをいいますよね。町の歴史を振り返ることによって見えてくることがあります。

水害は地震と違って天気予報などである程度予測できます。今年の新潟の水害以降、早めの自主避難が功を奏しています。また、ひとりでは避難が難しい方々を近所で見守ることも大切です。

最近の都市型水害は、河川の氾濫ではなく、降った雨を下水道が処理できなくなって、低いところに水が流れ込み、道路や地下街が冠水する新しい水害が課題になっています。

現在豊島区では、洪水ハザードマップをつくっています。(詳しくは、10月下旬頃の「広報としま」でお知らせするそうです。)これらも参考にしながら水の対策も考えてみてはいかがでしょうか。

(いのうえこういち/防災ネットワークプラン)